

基礎構造の設計に関わる新技術評価に関する研究委員会 第2回全体委員会 議事録

1. 日時 : 2004年12月22日(水) 15:30 ~ 17:30
2. 場所 : 地盤工学会 地下会議室
3. 出席者 : 木村、井上、大島、菊池、小松、田蔵、龍田、冨澤、福井、堀越、三浦、深田
(敬称略)
4. 欠席者 : 大川、大谷、大塚、後藤、白戸、張、山下(敬称略)
5. 議事 :

(1) 第1回委員会議事録の確認

深田幹事より前回議事録の説明があり、議事録は承認された。

(2) 各WGの内容説明

第1回委員会後に各委員にアンケート調査を行い、WG1(性能評価の体系化に関するWG)とWG2(新しい基礎形式に関するWG)に分かれ活動することとなった。今回、全体委員会の前に各WGにて討議が行われた(14:00~15:15)ので、その活動内容の報告があった。

・WG1(菊池主査):新技術の評価や審査事業に関して討議が行われた。「新技術の評価や審査をすることに伴う責任はどうするのか、土木学会の状況はどうか、海外ではどうか、学会で承認するとしても、その技術を認めるだけではなくフォローアップが大事では」などの意見が出された。認証システムの状況などについて調査する方向となった。

・WG2(深田幹事:代大谷主査):今回出席できなかった大谷主査の趣旨説明(多くの情報収集と話題提供を行い、事例集のようなものを作成して国際ワークショップを開催できれば広く会員のメリットになるのでは)を行った後に、各委員の討議が行われた。「コスト削減の折から、新しい基礎形式を採用したいというニーズがあること、新しい基礎形式の場合に設計法と実際のメカニズムとの相違をどう評価するのが難しい」などの意見が出された。国内外の事例収集については次回までに各委員が扱いたいテーマを出してもらおう方向となった。

その後、「NETISなどの審査証明の状況は?、新しい基礎形式に関して海外での事例は多くあるのか、日本の方が事例は多いのでは」等の討議がなされた。

(3) 新しい基礎の話題提供

・冨澤委員:「新杭の実用化に向けて」

始めに、事業主のサイドから新工法・新技術を実用化する際に技術者が持つべき認識や倫理について、ユニークな視点から説明があった。新たなものを生み出すには大きなパワーがいること等が述べられた。次に羽付き異形杭の開発の報告があり、杭頭接合の強化や先端支持力の確保、施工ねじれや座屈防止の効果について述べられた。

その後、杭に羽を付けた時の特許に関する質問や、水平載荷試験時の評価について現行設計法上の延長線で見るとか、実験で観察された挙動から評価するのか、などの討議があった。

・井上委員:「スカートサクシオン基礎の紹介」

スカートサクシオン基礎の紹介、技術的特徴、プレロード効果についての説明および今後の動向と展望が示された。海外での石油プラットフォームの事例や直江津港防波堤、岬町防衝工の事例が示された。貫入時のサクシオン力により支持力の確認が可能であることなどの特徴についての説明があった。施工事例が少ないと設計段階で採用されにくいという現実があるが、事例を増やすには設計施工法の体系化が必要であり、現在技術基準をまとめているとの報告があった。

スカート基礎の中の土の評価に関する質疑応答がなされた。基礎と一体で挙動すると考えてよさそうだと、とのコメントがあった。

(4) 次回予定

次回の委員会は H17年3月3日 14:00~17:00の予定となった。

以上